

思い出すことなど

城田由美子

昭和四十年に跡見学園女子大学が、設立され約四十年間勤めさせていただき本当に感謝しております。

開学当初は国文学科、美学美術史学科の二学科で、学生の数も三二〇名程度で皆さんの顔と名前も一人一人おぼえられました。その頃はオリエンテーションも、グラウンドで行なったり、体育祭的なものも行なわれたりして家族的なふんい気でした。学生数が三千名余りを数える現在からは考えられないほど友好的でした。

開学二年後、四十二年四月に英文学科、さらに九年後の昭和四十九年四月に文化学科が創設されました。

第一回生の入学式は現在の四〇二講義室で、行なわれ、また謝恩会も現在の一号館の演習室のところであった食堂で行なわれました。

体育実技の授業は、四〇三講堂か、グラウンドで行なったが、講堂ではイスの間に坐って柔軟体操を行ったり、またフロアでは球技やダンス等行ない、せまくて不自由な環境ながらも皆さん楽しく熱心に受講してくれました。

昭和五十九年に山崎一穎学長の御盡力で体育館が設立され種々の行事も体育館で行なわれるようになりました。体育の授業も体育館で恵まれた環境のもとでのびのびと運動が出来るようになり、学生ともども感謝しております。

グラウンドでの運動は恵まれた自然環境のもと、日光をあびながら深呼吸したり快適なものでした。ただ時には芝生の中からモグラがはいあがり、あとには巣穴が残り営繕課の方々によくうめてもらったものです。またミミズも出て困ったものでした。また近所の養豚農家からは風向きによってその臭いがきつく悩まされたも

のでした。現在では想像もつかないでしょうが、これらは自然に恵まれていた、なつかしい時代の思い出です。とにかく体育もスポーツも健康増進に関係あり、設備がなくとも何らかの方法で体を動かすことの大切さを文字通り身体を通して学んでくれればと云うことを思いつつ、この四十年間、授業を行なってきたつもりです。現在ニユース等で生活習慣病と、さわがれています。種々な点で便利になり、また飽食の時代と云われるよう食物も豊富になり、出来るだけ体力を使わないことを目的とするような文明弊害が顕著になってきているのが現状です。その結果、生活習慣病にかかったりしてその治療に専念せざるをえないようなことになっています。これは本末てんとう、といわざるをえないでしょう。

とにかく健康保持の原則は、栄養、休養、運動（適度に無理のないように体を動かすことが大切です。）筋肉は使わないと衰えます。時には、エレベーターを使わないで階段の登り降りをする、また柔軟体操を行う、速足で歩く、両手を挙げ思いきり体を伸ばし、ストンとおとす等体をほぐす運動も必要です。

私の専門分野に関して云えば学生時代より体操競技を専門として、一時は体操協会の役員として選手のコーチにもたずさわって来ましたが、とくに東京オリンピックでは女子体操のヘッドコーチとして、女子体操は初のオリンピック第三位の成績を収めることが出来ました、これは私にとり生涯忘れることのできない喜びばしい思い出の一つです。

これを契機に体操競技における審査の基準である美度について考えるようになりこの問題は、結局、舞踊と体操の関係にたどりつくことに気づき、これを考えながら授業にも望んだつもりです。

発声論的には舞踊は本来、人間の表現活動であって、内面的なものの表出、外面的なものの表現（自然模倣）であった、他方、体操はあくまでも体の鍛練のため生まれたものであって、当初は両者は判然と区別されるべきものでした。しかし昨今舞踊が体操同様な抽象的表現を取り入れるとともに、体操（とくに床運動など）も

表現的要素を重視するようになって、両者が表現、鍛練と云う対立的要素を融合した結果、両者の境界があいまいなものとなり、そのあいまいさの中に体操の特徴があるように思われます。したがって、体操においても、美しい表現をめざすことを忘れてはならないと思います。

最後に跡見学園女子大学の教職員の方々、卒業生の方々、また大学に御関係の皆様、本当に長い間お世話になり、ありがとうございます。

皆様の御健康とおしあわせをお祈り致します。

跡見学園女子大学の御発展お祈り致します。

城田由美子（しろたゆみこ）

生年月日

一九三五年一月一六日

現住所

東京都墨田区太平三―一九―八―三〇三

学歴

一九五三年四月 日本体育大学入学

一九五七年三月 日本体育大学卒業



職歴

一九五七年四月 日本女子大学付属高等学校教諭

一九六三年四月 跡見学園短期大学専任講師

一九六五年四月 跡見学園女子大学専任講師

一九六九年四月 跡見学園女子大学助教授

一九七五年四月 跡見学園女子大学教授

二〇〇二年四月 跡見学園女子大学文学部教授

この間、一九五七年四月～一九六八年三月まで、日本体操協会役員（一九六四年一〇月一〇日東京オリンピック体操女子コーチ）をつとめた。

紀要 第二号（一九六九・三、跡見学園女子大学）

「体操と舞踊における表現の問題」『女子体育 第一四卷第一号』

（一九七二・一、女子体育）

「舞踊か体操か」『跡見学園女子大学紀要 第一七号』（一九八四・

三、跡見学園女子大学）

【口頭発表】【共著】

「上腕二頭筋と上腕三頭筋の不動固定による無為萎縮に関する研究」『日本体育学会 第三二回大会』（一九七二・一一、日本体育学会）

業績

【学術論文】

「タッピングによるリズム運動の基本的研究」『跡見学園女子大学